

科学技術に関する調査プロジェクト報告書3点を刊行しました

『2050年カーボンニュートラルの実現に向けた脱炭素技術の課題と展望』

『宇宙空間の利用をめぐる動向と課題』

『科学技術のリスクコミュニケーション—新たな課題と展開—』

国立国会図書館調査及び立法考査局は、科学技術分野に係る重要な国政課題の中から特定のテーマを選定し、外部の専門家と連携して調査・分析を行う「科学技術に関する調査プロジェクト」を毎年度、実施しています。

この度、令和4（2022）年度のプロジェクトの成果として、次の3つのテーマについて、当館職員による調査や大学研究者等への委託による調査等の結果を取りまとめた報告書を刊行しました。

- 👉 『2050年カーボンニュートラルの実現に向けた脱炭素技術の課題と展望』
- 👉 『宇宙空間の利用をめぐる動向と課題』
- 👉 『科学技術のリスクコミュニケーション—新たな課題と展開—』

各報告書とも、テーマ分野の基礎的情報から関連する論点・課題までを幅広く調査・分析し、正確な情報を基に、客観性・中立性に配慮した上で、分かりやすく取りまとめるよう努めました。各テーマにおける課題を理解する一助として、是非御活用ください。



■ 『2050年カーボンニュートラルの実現に向けた脱炭素技術の課題と展望』（調査資料 2022-4）

本報告書は、令和4年9月30日にオンライン開催したシンポジウムの記録集です。2050年に目標を置いたカーボンニュートラルの実現に向けた様々な課題を多面的に明らかにすることを目指しました。江守正多氏、黒沢厚志氏、堀史郎氏、西尾匡弘氏、矢部彰氏による報告、岸本充生氏による問題提起に加えて、パネルディスカッションの記録及び岸本充生氏による論考を掲載しています。

■ 『宇宙空間の利用をめぐる動向と課題』（調査資料 2022-5）

宇宙開発は、世界各国において国家戦略が策定され、巨額の予算が投じられてきた主要な科学技術分野の一つです。近年は、民間の参入によって、様々な分野において宇宙開発の成果を社会に実装する動きが一層広がっています。本報告書では、宇宙空間利用の倫理的・法的・社会的課題、ロケット開発の状況、多数の小型衛星の連携及び一体的運用によって高度なサービス展開を行う衛星コンステレーション、衛星リモートセンシング技術と観測データの利活用、民間企業の参入を支える米国の研究開発型中小・スタートアップ企業支援制度、宇宙空間と安全保障に係る組織機構の動向、スペースデブリの問題について、学識経験者の方々の御助言、御指導を受けつつ、分析・整理を試みました。

■ 『科学技術のリスクコミュニケーション—新たな課題と展開—』（調査資料 2022-6）

将来の不確実性、すなわち人間の意思決定や行為に伴って引き起こされる悪影響の可能性（リスク）の多くには、科学技術が絡んでいます。多岐にわたるリスクをどのように把握して見積もり、回避・低減するための対策をとるかは、政策の立案や決定・実施、あるいは組織の運営・経営上の本質的課題と言えます。政府や企業は、こうしたリスクの評価や管理を、利害関係者や一般の人々との対話を通じて、信頼関係を築きながら行うことが要請されており、この対話や協働の営みが「リスクコミュニケーション」です。本報告書では、「科学技術のリスクコミュニケーション」の実践・研究の到達点や課題、新たな展開の可能性を、第一線で活動する研究者がレビューしています。

■ 入手方法

国立国会図書館のホームページに PDF ファイルで全文を掲載しています。

URL: <https://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/document/2023/index.html>

国立国会図書館トップ> 国会関連情報> 『調査資料』> 2023年刊行分

* 冊子版の報告書の入手を希望される方は、以下のお問合せ先まで御連絡ください。

■ お問合せ先

国立国会図書館 総務部総務課広報係 電話：03-3506-5103（直通）

（参考）調査及び立法考査局の「立法調査サービス」

国会議員からの依頼に基づき、政治、経済、社会、文化、科学技術等、広範な分野の国政課題について、根拠となるデータの収集や事実関係の調査から、論点整理、分析・評価まで、多岐にわたる調査を行います。また、現在・将来の国政課題について調査した成果を報告書などにまとめ、国会議員に提供しているほか、国立国会図書館ホームページで公開しています。